

# 医療健康

限られた施設や人材を有効活用し、患者本位の医療を提供する。地域内の複数の医療機関が共通の診療計画書に基づいて患者の治療やリハビリテーションを進める「地域連携クリティカルパス」（地域

連携パス）が注目されている。脳卒中の治療で連携する福岡市医師会のモデルケースと、高齢者の在宅医療を支えている福岡県粕屋北部地域の取り組みを紹介する。（坂本信博）

## 施設内完結から地域内完結へ

## 複数施設で患者情報共有

福岡県の粕屋医師会（陣内重三会長）は、在宅医療を受けている患者に先駆けて運営している終末期の高齢者などの情報を、かかりつけ医が作成する地域連携パスで登録し、容体の急変時に

### 粕屋北部在宅医療・独居老人ネット

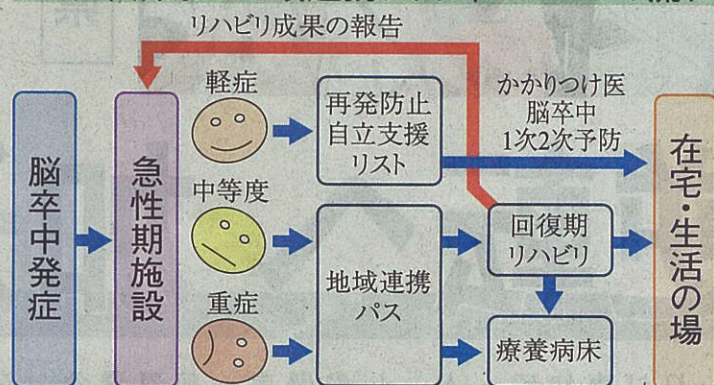
生かす「粕屋北部在宅医療（陣内重三会長）は、在宅医療を受けている患者に先駆けて運営している終末期の高齢者などの情報を、かかりつけ医が作成する地域連携パスで登録し、容体の急変時に

暮らしが六十五歳以上の住民八十五人が登録している。パスには、本人の同意を得た上でかかりつけ医が記録する。その内容は、病歴や服薬歴、認知症や

## 地域連携パス

## 広がる取り組み

### 脳卒中治療の地域連携クリティカルパスの流れ



同医師会によると、九州医療センターが二〇〇三年から回復期リハビリ病棟を持つ長尾病院（福岡市城南区）と脳卒中患者の連携パスを試行して

立度の経過、言語、食事の状態などを細かく記録した医療者向けの連携パス（情報交換用紙）を病院内に渡している。

連携パスは、医療機関にとって患者の病状と経過を十分に把握できるメ

## 9病院が検討 共通の交換用紙 年度内に作成へ

連携パスは、医療機関にとって患者の病状と経過を十分に把握できるメ

### 福岡市医師会・脳卒中治療モデル事業

スに運用を拡大する。試行では、患者が同センターから長尾病院に転院する際、発症後の診療情報はもちろん、寝返りなどの日常生活動作や自

経過が一目で



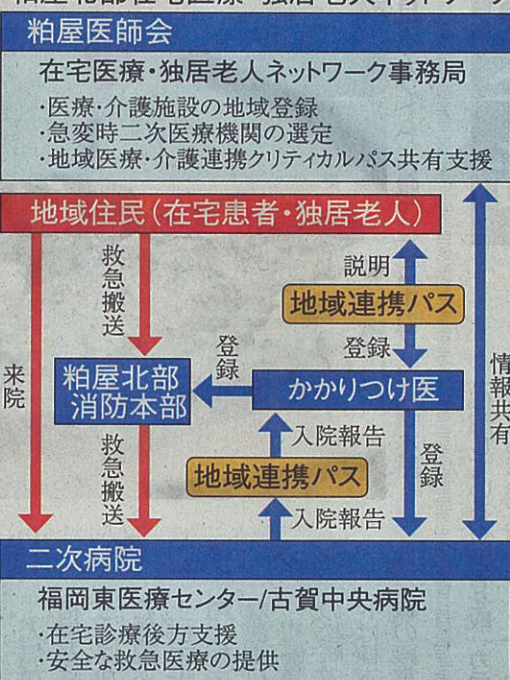
国立病院機構九州医療センター 岡田 靖医師

## 手術から療養まで治療方針統一

近年、医療機関の機能分化は進み、得意分野は患者の回復経過に合わせて①手術などの治療をする「急性期」②リハビリを中心とした「回復期」③在宅や施設療養の「維持期」などに分類できる。

たが、複数の医療機関が共通のパスを作り、互いの得意分野を生かし合うというのが「地域連携パス」だ。

### 粕屋北部在宅医療・独居老人ネットワーク



暮らしが六十五歳以上の住民八十五人が登録している。パスには、本人の同意を得た上でかかりつけ医が記録する。その内容は、病歴や服薬歴、認知症や

まどめた。宮松直美滋賀医大教授（臨床看護学）らが昨年、秋田市、静岡市、広島県呉市で無作為抽出した40歳以上の計1万1000人余りにアンケートし約半数が回答した。脳卒中がどんな病気か「大体知っている」と答えたのは77%で、年代が上がるほど多かった。しかし、危険因子を選んでもらう問いでは、高血圧や大酒飲みなどへの認識は高かったのに対し、糖尿病や心臓病、喫煙、運動不足を選んだ人は66—34%止まり。また、発作時の症状として、両手の指先にしびれがあると誤った答えを選ぶ人も45%に達した。

### 短 信

福岡徳洲会病院健康教室「貧血について一食生活を見直してみよう」 27日午後2時半—3時半、福岡県春日市須玖北4丁目の同病院センター棟6階講堂。講師は管理栄養士の一瀬幸絵氏。無料（申し込み不要）。同病院＝092（573）6622。

▼脳卒中の知識、まだ不十分 脳卒中がどんな病気か知っていると知っている人は多いが、病気の危険因子や発作時の症状は十分に理解されていない、との調査結果を日本脳卒中協会が